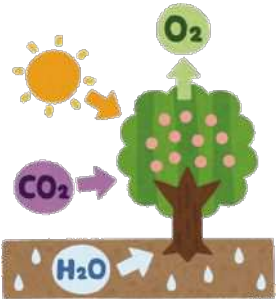


わたしたち人間は、自然や生物多様性※4の恵みをたくさん受けて暮らしています。

※4 生物多様性…豊かな自然環境の中で、様々な生きものがつながりあい、バランスを取りながら生きていること、そして、その生きものの個性と自然のつながりの豊かさのこと

【基盤サービス】

光合成による酸素の
生産や有機物の生産



【調整サービス】

水の浄化や
土砂災害の防止



【供給サービス】

食べ物や水、木材、薬
などの提供



【文化的サービス】

自然と共生する多様な
文化、芸術の形成



しかし、自然環境やそこに生きる生きものたちは、開発や里地里山の管理不足、外来種の侵入、気候変動などの影響を受けて失われつつあります。豊かな自然を守っていくため、できることから始めてみませんか？

生物多様性の大切さを知る

- 屋外に出て、自然の心地よさを感じてみましょう。
- 身近な生きものを観察してみましょう。
- 木を植えて育ててみましょう。
- 生きものを育ててみましょう。
- 自然を守る活動に参加してみましょう。



生物多様性を守る

- 地元でとれた農作物や木材などを選びましょう。
- 環境にやさしい方法で生産されたものを選びましょう。
- ごみのポイ捨てをしないなど、自然を汚さないようにしましょう。
- 自然のものをむやみに採ったり、傷つけたりないようにしましょう。
- めずらしい生きものの情報は公開しないようにしましょう。
- 生きものを驚かさなように、巣やすみかには近づき過ぎないようにしましょう。
- ペットは最後まで責任をもって飼いましょう。



調査で見つかった
生きものや環境を
紹介する動画を
市ホームページで公開中



調査で見つかった
外来種の情報も
市ホームページで
公開中

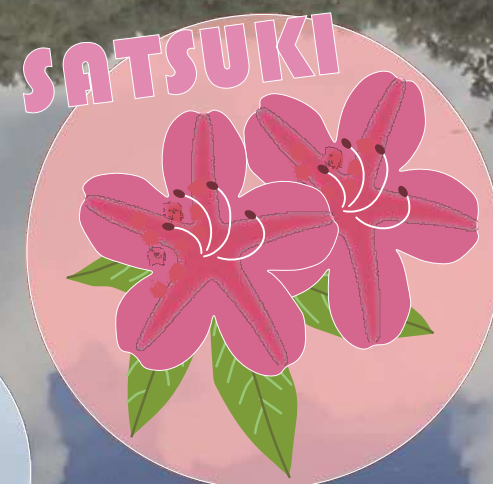
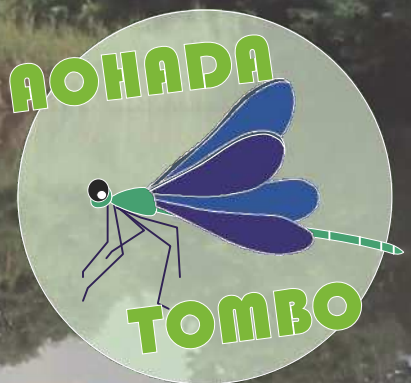
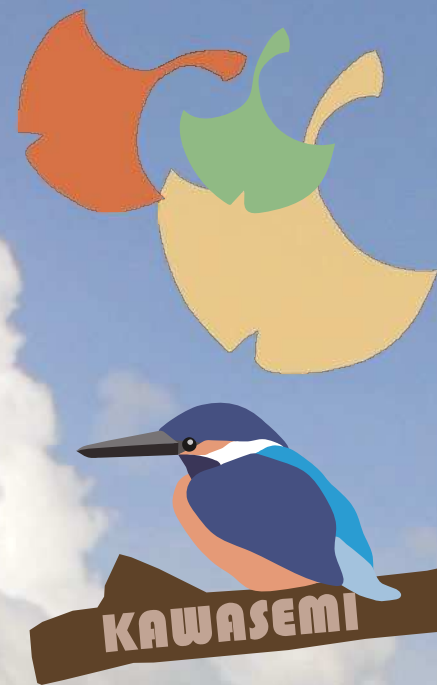


うつのみやの自然(第4回宇都宮市自然環境基礎調査)
令和7年3月
発行:宇都宮市環境部環境保全課 自然共生グループ
電話:028-632-2405
Email:u0711@city.utsunomiya.tochigi.jp



うつのみやの 自然

第4回 宇都宮市自然環境基礎調査



宇都宮市
UTSUNOMIYA CITY

宇都宮市の自然環境

宇都宮市は、山、川、林、農地や湿地などの多様な環境に様々な動植物が生息・生育している自然豊かな市です。

人と自然の距離が近いことも特徴で、農地や二次林からなる里山環境は人々の手で維持され、河川や公園でもボランティアによる清掃や保全活動が行われています。



ハッチョウトンボ

自然環境基礎調査

宇都宮市では、生きものの生息・生育状況や自然環境の現況などを把握するため、定期的に調査を実施しています。平成2～3年度に1回目の調査を行い、今回の令和5～6年度に行った調査は4回目の調査となります。

第1回
平成2～3年度

第2回
平成11～12年度

第3回
平成21～22年度

第4回
令和5～6年度

目的

現在の状態を
正しく把握する

過去から
現在までの
変化を確かめる

今後
自然環境を守る
ために活用する

調査の様子

市内の自然環境を有する場所から 調査を行う場所を20地点選び、植物、ほ乳類、鳥類、昆虫類、両生類、は虫類、魚類、底生生物を調べました。



植物
目視で種類と状態を確認



鳥類
鳴き声や姿で種を判別



両生類
捕獲や目視



魚類
網を使って捕獲



ほ乳類
わなでの捕獲や痕跡確認



昆虫類
わなや網などで採集



は虫類
捕獲や目視



底生生物
川底をさらって収集



動物調査では動体検知カメラも使用しました。動物が通ると自動で記録する仕組みで、なかなか人前には現れないような生きものの様子も撮影することができます。カメラに興味を示したヤマガラや、夜行性のテンなどの自由な行動を記録することができました。

水辺には多くの種類の動物が集まります。水中をよく観察してみると、小さなエビが泳いでいたり、トビケラという虫に寄生するハチが見つかったりします。調査では、こうした生きものがすみかにしそうな場所を狙ってサンプルを収集しました。



ノウサギ



テン



ヤマガラ



ヌカエビ



ミズバチ

見つけた生きもの

今回行った第4回調査では、市内20地点の調査地で

植物**1,274種**、動物**2,799種**が確認されました

植 物	1,274種 重要種※1 マツバランなど66種	ほ 乳 類	19種 重要種 キクガシラコウモリなど3種
鳥 類	102種 重要種 ミゾゴイなど19種	両 生 類	13種 重要種 トウキョウサンショウウオなど9種
は 虫 類	12種 重要種 シロマダラなど9種	昆 虫 類	2,254種 重要種 ハッチョウトンボなど61種
魚 類	32種 重要種 ホトケドジョウなど11種	底生生物	367種 重要種 ヨコハマシジラガイなど34種

※1 重要種・・・国や県のレッドリストに指定されている種や、天然記念物に指定されている種など、本調査で設定した希少な動植物のこと

分かった変化

- 各調査地点において確認した生きものの種数・重要種・外来種に増減があるものの、環境や生物相はおおむね維持されていました。
- 重要種については、戸祭山のトウキョウサンショウウオ、駒生湿地や鶴田沼周辺のハッチョウトンボ、モートナイトトンボなど多くの種が確認され、生息環境がおおむね維持されていました。
- 山地周辺では、イノシシの確認地点が増加したほか、ニホンジカが新たに確認されました。
- 外来種については、新たにアライグマが確認され、生息地を拡大していたほか、鬼怒川を中心に確認されていたシナダレスズメガヤが分布を拡大し、シルビアシジミなどの重要種の生息環境の悪化や減少がみられました。
- 気候変動の指標となる南方系チョウ類のツマグロヒョウモンやモンキアゲハなどの確認地点が増え、温暖化の兆候がみられました。

20地点の調査結果から、重要配慮地域を選定しました

<選定の視点>

環境の状態

- ✓自然林がある
- ✓里山の環境が維持されている
- ✓緑が連続している

生きものの状態

- ✓絶滅危惧種がたくさんいる
- ✓里山を示す指標種がたくさんいる
- ✓外来種が少ない

活動の状態

- ✓保全・教育活動が行われている
- ✓環境の維持管理が行われている
- ✓多くの人が利用している

<選定結果>

選定の視点を満たし、優先的に継続的な環境の把握や保全活動を実施していくうえで重要な環境を有することが分かった**14地点**を選定しました。

※ 重要配慮地域に選定されなかった6地点も、“留意すべき配慮地域”として、重要配慮地域に準じた保全を図っていきます。

調査地点の結果の概要は次ページで紹介➡

宇都宮市の環境と生きものたち

山地



- ③細野ダム周辺・古賀志山 ⑧多気山
⑬羽黒山 ⑰大谷観音(姿川)周辺 ⑳飯盛山

宇都宮市の北西部には山地が広がっており、針葉樹林や落葉樹林をはじめ、様々な樹林が存在しています。その中には、多気山や羽黒山のように社寺林として管理されてきた環境もあります。ムササビやフクロウなど、まとまりのある緑地環境を必要とする生きものが確認されました。

大谷観音(姿川)周辺には大谷石※2を産出する地質と大谷石を切り出した特殊な地形があり、崖地に特有の植物が生育しています。



ノウサギ



クマタカ



- 重要配慮地域
- 留意すべき配慮地域
- 森林
- 水田
- 畑地
- 河川・湖沼
- ゴルフ場
- 市街地
- その他の用地
- 道路・鉄道

里地・里山

宇都宮市の土地利用で最も面積が大きいのは水田で、次がスギ・ヒノキ植林やコナラ二次林などの管理された森林です。こうした里地・里山は、森や水田、ため池、水路など多様な環境が複合することで、多くの生きものにすみかを提供しています。

調査では、生息に草地が必要なカヤネズミやオオタカ、オオムラサキなど環境の変化に敏感な生きものが確認されました。



オオムラサキ



ヒバカリ



河川

- ⑤鬼怒川柳田緑地周辺 ⑥旧鬼怒ふれあいビーチ周辺
⑭西鬼怒川逆木水神社周辺
⑮鬼怒川上小倉・下小倉周辺の河川敷
⑱江川(平塚町)周辺 ⑲田川(上金井町)周辺

市内には大河川の鬼怒川をはじめ、田川、江川、姿川など複数の河川が流れています。上流ではヤマメ、中流ではアユやオイカワ、下流の流れが緩やかなところではコイやギンブナなどの魚が生息しています。

鬼怒川に見られるれき河原※3の河川敷は、一部が「自然環境保全地域」に指定され、シルビアシジミやカワラノギクなど、希少な生きものやその生息・生育環境が保全されています。



ヤマメ



シルビアシジミ



湿地

- ①駒生湿地
④上篠井湿地周辺 ⑪鶴田沼周辺

湿地には、水が溜まることで独特の生態系が形成されます。

モウセンゴケ、ミミカキグサなどの植物や、日本一小さいハッチョウトンボ(市の天然記念物)など湿地にしかない希少な生きものが多く確認されました。



ハッチョウトンボ



ホトケドジョウ



モウセンゴケ



ミミカキグサ

※2 大谷石…大谷地域を中心として採掘されている凝灰岩(火山灰などが固結した岩石)

※3 れき河原…洪水・増水によって形成される丸い石と砂の混じった河原のこと

市街地の緑

- ②長岡湿地周辺 ⑨戸祭山
⑩文化の森周辺

市の中心部にも多様な生きものがすみ緑地が残されています。長岡湿地や戸祭山にはトウキョウサンショウウオ(市の天然記念物)が多数生息していて、地域のボランティア活動によって守られています。

市民に身近な自然環境であり、草刈りなどの管理がされています。一方で、アライグマやアメリカザリガニなど外来種も数多く侵入していて、捕食などによる希少種の減少が心配されます。



ニホンアカガエル



ヒメジャガ

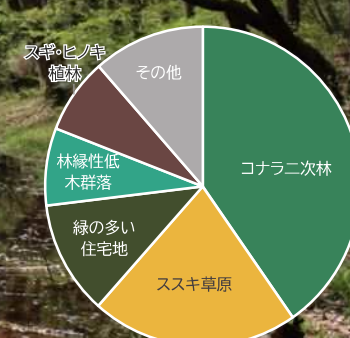


重要配慮地域の一部を紹介します

ながおかしゅうちゅうへん

② 長岡湿地周辺

市街地に貫入する丘陵地

生息・生育する生物	確認種	重要種
ヒメミクリ	1,259種	37種
ニホンカナヘビ		
アオイイトトンボ		

市街地に隣接する丘陵地に谷戸環境(川の流れて作られた谷状の地形)があり、こうした環境に特徴的な生きものが生育・生息しています。カヤネズミが生息する草原は、草刈りを続けないと維持されにくい環境です。希少な生きものが多く生息・生育する水辺や草原の環境を守る必要があります。

確認種: 1,259種
重要種: 37種

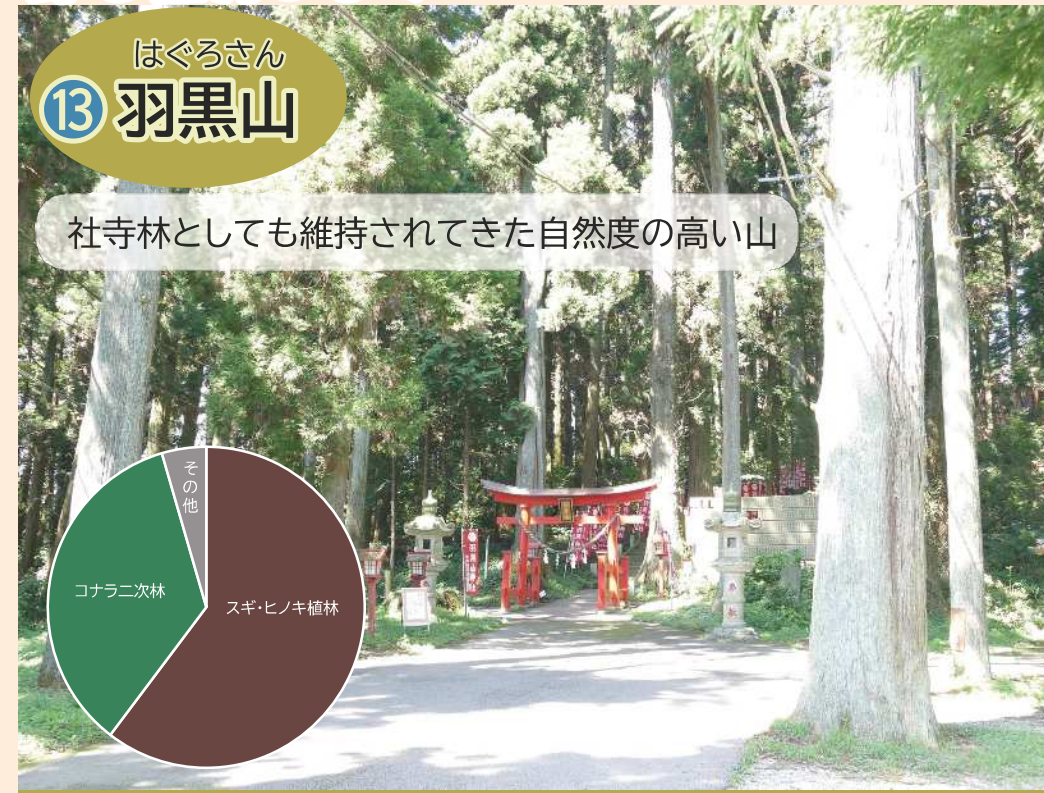
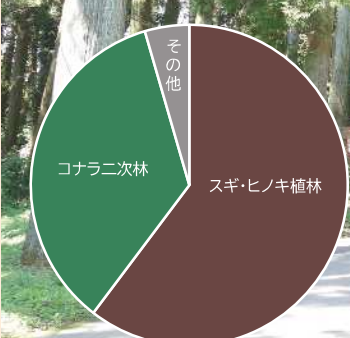




はぐろさん

⑬ 羽黒山

社寺林としても維持されてきた自然度の高い山

生息・生育する生物	確認種	重要種
ヒガシニホントカゲ	1,468種	32種
ジャコウアゲハ		
コサメビタキ		

社寺林として長い間整備・保護されてきたスギ老齢林は市の天然記念物に指定されているほか、林内にはフクロウ、コサメビタキ、ムササビ、ヒメネズミなどが生息し、貴重な植物が多く生育しています。まとまりのある森林を保全するとともに、盗掘されやすい植物などを保全する必要があります。

確認種: 1,468種
重要種: 32種

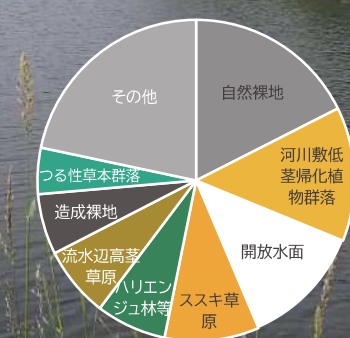




きぬがわ かみこぐら しもこぐらしゅうへん かせんしき

⑮ 鬼怒川上小倉・下小倉周辺の河川敷

鬼怒川中流域本来の良好な環境が残る河川敷

生息・生育する生物	確認種	重要種
カワラニガナ	1,229種	49種
コムラサキ		
カジカ		

河川、れき河原、緑地など変化に富んだ環境が連続していて、植物、鳥、魚、昆虫など多種多様な生きものが生育・生息しています。シナダレスズメガヤなどの外来植物が侵入し、在来の生きもののすみかが奪われています。河川では水流で移動した外来種が広い範囲に定着しやすいため、対策の必要があります。

確認種: 1,229種
重要種: 49種

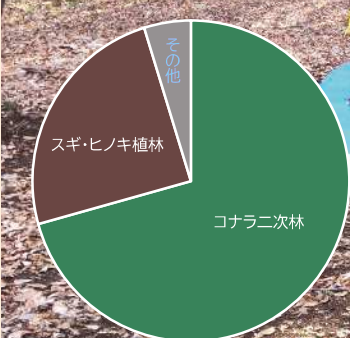




とまつりやま

⑨ 戸祭山

市街地に局所的に残された樹林と湿地

生息・生育する生物	確認種	重要種
トキボコリ	847種	11種
アミメキシタバ		
トウキョウサンショウウオ		

周囲を市街地に囲まれた丘陵地で、地元の人々の活動によってトウキョウサンショウウオ(市の天然記念物)などの生きものが生息できる環境が維持されています。人々が継続して維持管理していくための支援や、アライグマなどの外来種が在来の希少な生きものに与える影響を把握していくことが必要です。

確認種: 847種
重要種: 11種



